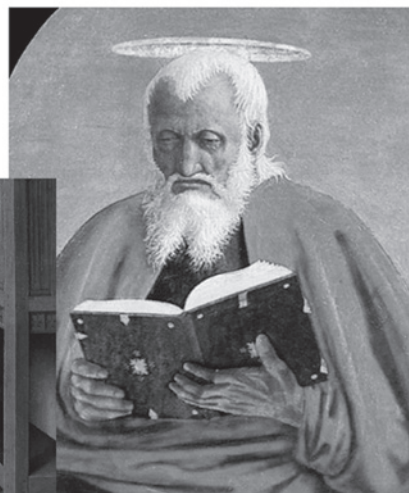




本を読む人々－15世紀の絵画に描かれた「読書」

目次

- 洋書にふれてみませんか? 2頁
- 【連載】
W・M・ヴォーリズと『湖畔の声』③最終回
..... 中村 裕史 4頁
- 【連載】図書館のススメ(その6)
神奈川県立川崎図書館 5頁
- 図書館特別講演会
「江戸の版木を摺る」レポート 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介
『人間の記録』
『20世紀の人間たち』, “Antlitz der Zeit”
..... 7頁
- 今号の表紙 8頁
- 編集後記 8頁

図書館のコトバ その⑦ 貴重書

OPACで検索すると、書誌詳細画面の配置場所に「書庫貴重書」と表示される資料があります。貴重書とは、本学では主に19世紀末までに発行され、貴重な価値を持っている資料を特別に指定し、保管しているものです。

この貴重書の利用については制約があり、借りることはもちろん、自由に閲覧することもできません。数百年前に出版された資料のため、取り扱いには細心の注意を払う必要があるためです。ですが、最近では授業の一環として貴重書庫見学を行うゼミもあるようです。もし興味があれば先生にお願いしてみたいかがでしょうか。

洋書にふれてみませんか？

数ヶ月前、大手企業が社内で英語を公用化するというニュースが話題を呼びました。これについてはさまざまな意見がありますが、大手企業の方針はともかくとして、学生時代に英語を習得しておきたいと思っている人はたくさんいることでしょう。

神奈川大学の図書館にはたくさんの外国語の本があることをご存知でしょうか？主に欧米の言語によって書かれた本は「洋書」に分類され、図書館内では配架場所も分けられています。これらの洋書は、特に横浜図書館ではほとんどが閉架（書庫下層）にあり、利用者の皆さんの目に触れる機会は少ないかもしれません。また、洋書なんて借りてもどうせ読めないよ、とか、途中で挫折しそう、と思っている人もいるかもしれません。でも、中にはそれほど高い英語力がなくてもすらすらと読めそうな本や、眺めているだけで楽しい本、貴重で珍しい本などもたくさんあります。

図書館で洋書にふれてみませんか。今回は、英語の本を中心にいくつか紹介いたします。

英語を読むことに慣れたいという方にお勧めのシリーズ

Graded Readersという英語学習のための読み物があります。これは古典文学から映画の原作までさまざまなタイトルで構成されたシリーズで、一冊毎に難易度によってランク付けされているので、自分の英語力に合ったタイトルを選ぶことができ、読みながら英語のレベルを上げていくことができます。

Penguin Readers

リーディングのレベルに合わせて1（Beginner 300 words）から6（Advanced 3000 words）まで選べる。ページ数も少なく、レベル6でも100ページ程度なので読みやすい。

請求記号：A083-22（Beginner）からA083-26（Advanced）まで
（横浜図書館 3F開架）

Oxford Bookworms Library

こちらもステージ1（400 headwords）からステージ6（2500 headwords）まで選べる。ステージ1、2が50ページ程度、ステージ5で100ページ程度。

請求記号：A933-3173（stage1）から
A933-3178（stage6）まで
（横浜図書館 3F開架）



Penguin Readers

日本の人気作家の作品を英語で読む

日本でベストセラーになった小説を英語で読んでみるのも面白いでしょう。ストーリーを知っている小説なら、多少わからない単語が出てきても読み通すことができるかもしれません。

"OUT" Natsuo Kirino

桐野夏生のベストセラー『OUT＝アウト』の英語版

請求記号：A913-209（横浜図書館 書庫下層）

"Norwegian wood" Haruki Murakami

請求記号：913.6-13（平塚図書館 第1書庫）

"Kafka on the shore" Haruki Murakami

請求記号：A913-216（横浜図書館 書庫下層）

世界中にファンを持つ村上春樹の『ノルウェイの森』『海辺のカフカ』の英語版

その他、SOSEKI, DAZAI, MISHIMAなど日本人作家の英語版作品があります。また横浜図書館第2グループ閲覧室、3階開架閲覧室の廊下にはペーパーバックの小説など、たくさんの洋書があります。手にとってみてください。

こんな本もある！広くて豊かな洋書の世界

洋書を手にとってみるのは語学の学習のためだけではありません。図書館の所蔵している洋書には貴重な本、珍しい本がたくさんあります。その一部を紹介しましょう。

世界で最初出版された写真集（復刻版）

"The Pencil of Nature" William Henry Fox Talbot

カロタイプと名づけられた写真術の開発者、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットが1844年から1846年にかけて発行した写真集の復刻版。カロとはギリシア語の「美しい」という意味。カロタイプは同時代に開発されたダゲレオタイプと異なるネガ・ポジ方式のため、焼き増しができ、写真集の出版が可能になった。

請求記号：A740-11
(横浜図書館 書庫下層)



今から約100年前のアメリカの通販カタログ

"The great price maker: Sears, Roebuck and Co. Catalogue" 1902.



洋服、靴、かつら、時計、食器、本から家具、ぬい、楽器、拳銃まで。このカタログで何でも買える。アメリカ、イリノイ州のシアーズ・ローバック（現シアーズ・ホールディングス）の1902年版通販カタログ。

緻密な描写の商品のイラストによって、当時の人々が使っていた日用品についても詳しく知ることができる。

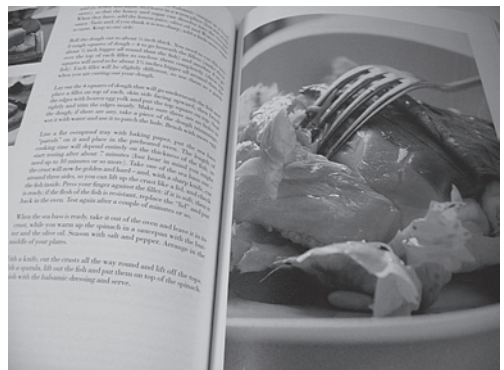
請求記号：A354-Q.11-341
(横浜図書館 書庫下層)

有名シェフのイタリア料理本

"Made In Italy Food & Stories" Giorgio Locatelli

映画「コックと泥棒、その妻と愛人」で料理を担当し、ロンドンに人気レストランを持つシェフ、ジョルジオ・ロカテリによるイタリア料理の本。45種の pasta 料理、32種の肉・魚料理などの作り方と食材や料理に関するエッセイが載っている。美しいイタリアの風景と料理の写真がすばらしい本。

請求記号：A590-36
(横浜図書館 書庫下層)



人間と動物、歴史と芸術

"A Cultural History of Animals" edited by Linda Kalof

人間と動物のかかわりにおける古代から現代までの歴史を、さまざまな観点から捉えた本。特に動物をモチーフとした芸術作品の写真が多く、美術書としても興味深い本である。

請求記号：A480.8-1~6-3 (横浜図書館 書庫下層)

W・M・ヴォーリズと『湖畔の声』③ 最終回

—「今日は昨日、明日は今日より、進みに進み行く、我等のよき日とせん」—

中村 裕史（図書館総合サービス課）

一冊で完結する単行本とは異なり、終期を予定せずに刊行される雑誌を週及的に通覧すると、時として、そこに携わってきた人々と彼らが生きた時代に心が誘われていく。明治、大正、昭和と綴られ続けた文章群は、その時代特有のコンテクストの中でリアリティを持つものだろう。しかし、現在という視座に立つ私達は、大きな歴史の流れの中でそれらを捉えざるを得ない。その様な俯瞰的な立場は、後の時代に生まれた人間の知的特権であると同時に、何かを失った損失の証拠かもしれない。過去に遡及するほどにイメージは色を失う。明治の彩色絵葉書のように色を重ねても、逆に奇妙な非現実感が強まる。大正が過ぎ、昭和となり、「明治は遠くなりけり」と詠われ、書き綴られた事どもは「逝きし世の面影」となる。明治の日本に降り立ったアメリカ人青年と同様、我々の眼差しも異邦人のそれと差ほど変わらないかもしれない。それでも、残された記録を読み進んでいけば、心の中に共鳴するものが生まれてくる。

さて、ヴォーリズは明治38年に横濱港に降り立った。日露戦争終結までなお半年。欧米の近代国家の樹立に邁進し、まさしく「坂の上になびく一筋の雲」を目指した時代である。連載最終回の本稿では、初上陸の地である横濱に触れつつ、『湖畔の声』が背負う歴史に想いを馳せたい。

ヴォーリズ横濱上陸

「船が日本に近づく、と、神々しい富士の姿をはじめて見た。しかし、このとき富士の峰がそそり立つ日本の民は、ロシアとの戦争のさなかであった。船は横濱港まで到達したが、そこからは、水先案内のランチのあとに従って、港内を敵艦の侵入から守るため、機雷の間を縫うて迂回し徐行しながら進んで行った。当時の横濱港には大洋航路の船舶が横づけできる波止場が、まだなかったから、日本に上陸する船客は、舢舨(はしけ)によって岸に運ばれた。上陸すると、ずらっとならんだ人力車のちょうちんと客引きの車夫の声とに迎えられた(適宜中略)」。ヴォーリズは昭和26年から『湖畔の声』に「失敗者の自叙伝」を連載。引用箇所はサンフランシスコから19日間の航海の後に横濱に上陸した時の様子である。富士山、舢舨、人力車…日本の地を踏んだ異国の人々が等しく記憶に刻んだものごとである。

ヴォーリズ人力車に乗る

ヴェニスといえばゴンドラについて語られるように、横濱(日本)といえば人力車が記録されてきた。ある人は好意的に、ある人は牛馬の代わりに人が引

く乗り物に嫌悪感を抱きながら。ヴォーリズも「THE OMI MUSTARD-SEED」¹の中で、上陸の日に宣教師のもとへ向かう途中のエピソードを生き生きと書き残している。「いくらか尋ねると、20銭という答えでした。やがて丘に差しかかると、一人の男が後ろから車に駆け寄って押してくれたので、その親切に私は驚きました。ところが、この風変わりな乗り物に出会えた喜び、適切な運賃、そして見知らぬ苦役労働者の親切はちょっとしたショックをもたらしました。というのは、やっと目的地に着いたところ、そこでこの丁重な男は約束した20銭ではなく、とても控え目ながら、85銭を要求したのでした。やはり彼ら、日本には正直という性質は存在しない、と外国で言いふらしているあの旅行作家たちは、正しかったようです。(適宜中略)」。ただしヴォーリズは、一人の行いで国民全体を評価すべきではないという慎重な姿勢も同時に示している。

関東大震災、復興、そして

ヴォーリズが横濱に上陸してから約20年後、関東大地震が発生する。多くの人々が歴史を刻んできた開港以来のエキゾチックな町並みは、「海岸より望見すれば、残存する家屋なし」と報告されるまでに壊滅的な被害を受けた²。それでも横濱は力強く復興に向けて動き出す。

日本はこの後、暗い時代へと向かっていく。図書館の書架に並ぶ『湖畔の声』を眺めれば、次第に厳しさを増す時代状況が見て取れる。ページ数は減り(昭和18年から用紙制限により)、上質紙から粗悪な酸性紙に変わる。もろくなった紙のザラザラした感触と独特な埃くさい匂いを嗅げば、この資料が背負ってきたリアリティがダイレクトに感覚に迫ってくる。時代を潜り抜けて来た資料を保存することは、資料が背負う時代をも保存することである。そこに図書館の存在意義があり、図書館員が長年の経験の中で資料に対する造詣を深めていく使命がある。

何度目かの電子書籍元年といわれる今年。私にとりこの連載は、図書館について改めて考える機会となった。ここまでお付き合いいただいた皆様に感謝申し上げると共に、拙文を深くお詫びして連載を終わりたい。(了)

1 「THE OMI MUSTARD-SEED」については、『図書館だより』No. 131を参照のこと。

2 今井清一『横浜の関東大震災』横浜：有隣堂、2007年

図書館のススメ (その6)

神奈川県立川崎図書館

神奈川県立図書館は、横浜と川崎にあります。横浜の図書館については、「図書館だより」126号のこの連載で取り上げましたので、今回は川崎図書館についてご紹介します。

126号でご案内したとおり、神奈川県立図書館は、所蔵している資料分野が横浜と川崎とは異なります。川崎図書館は自然科学・工学・産業技術系に特化しており、「科学と情報の産業ライブラリー」を売りにしています。つまり、小説といった文学関係のものはこの図書館にはありません。よって、利用者層や雰囲気等、普通の公共図書館とはちょっと違うかもしれませんが、ビジネスや自然科学関連のより専門的な情報を得られることで有名ですので、県内に限らず全国から利用者が集まる図書館となっています。

図書館に入っすぐの1階には、「ビジネス支援室」があります。産業関連団体(川崎商工会議所等)が推薦する図書が並び、特許情報や規格情報、ビジネス雑誌、業界新聞等々、ビジネスに関する資料が豊富にあります。ここの特徴の1つが、「本」だけではなく「人」も紹介してくれるサービスを提供していることです。創業・経営相談(例えば、どうすれば会社がつくれるのか?)、技術・発明相談(例えば、思いついたアイデアを活かしたい!)等、専門の方が外部から来て無料で相談に乗ってくれます。もちろん、この分野に明るい職員がカウンターにいますので、資料収集の方法などいつでも相談することができます。

3階には「科学技術室」があります。自然科学分野の専門書や実務書の他にも、専門誌・学会誌といった和雑誌が取り揃えられています。公共図書館でこの分野に関する専門雑誌をここまで収集している図書館は、他にはありません。非常に貴重な図書館です。

4階は「社史室」です。神奈川大学図書館でも社史を所蔵していますが、川崎図書館には15,000冊(神大のはほぼ10倍)あり、国内でも有数のコレクションです。社史と言ってもピンとこないかもしれませんが、学生のみならず、例えば就職活動の際、志望企業を知るためには有用な情報源となります。これらの社史は貸出も可能です。

今回筆者も実際に足を運んでみて、経営学の学生さんや理・工学部の学生さんには、特にこの図書館をオススメしたい!と思いました。他学部の学生さんも、社史を始め会社情報が豊富にありますので、就職活動にも使えると思います。

なお、神奈川大学図書館は県立図書館と協定を結び相互協力を行っていますので、川崎図書館の資料を神大に取り寄せて見るができます。また、県立図書館のホームページ上で予約をしておけば、横浜駅西口徒歩5分のところにある「生涯学習情報センター」(かながわ県民センター5階)で借りることもできます(利用者登録もここでできます)。

県立川崎図書館へは、JR川崎駅東口もしくは京急川崎駅より徒歩15分程で到着します。市役所通りをひたすら真っ直ぐ行くと、右手に青い看板が見えてきますので、迷うことはないと思います。講演会や講習会、展示会といったイベントも毎週のように開催しています。今年7月には、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャー、川口淳一郎氏の講演会を行う等、旬なテーマを取り上げています。神大生にとって要チェックな図書館です!



神奈川県立川崎図書館利用案内

所在地 〒210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4 TEL: 044-233-4537

休館日 月曜日

開館時間 平日 9:00-19:00 (社史室は17:00まで) 土・日・祝 9:00-17:00

県立川崎図書館ホームページ <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>

図書館特別講演会 「江戸の版木を摺る」レポート

開催日時：2010年11月8日(月)

第1回 16：20～17：30

第2回 18：00～19：10

場 所：神奈川大学図書館 地下1階 視聴覚小ホール

講 師：社団法人温故学会理事長 斎藤幸一氏

参 加 者：60名(第1回、第2回)

昨年12月に図書館企画として開催した「江戸の版木を摺る」を、好評につき今年も11月8日(月)に行いました。16時20分の回では経済学部関口博巨先生の講義の受講生を中心に、18時からの回では一般参加者の皆さんを中心に、社団法人温故学会理事長 斎藤幸一氏による講演会と実際の版木摺りを行いました。

江戸の版木と塙保己一と『群書類従』

塙保己一(はなわ ほきいち 1746-1821)は、江戸時代後期に『群書類従』という全666冊、総ページ数約34,000ページ、収録文献数1,277種に及ぶ大文献集を編集・出版した全盲の学者です。『群書類従』の編纂は古来の貴重な文献が散逸され失われることなく、後世の人々に確実に伝えられるようにとの目的で行われました。この『群書類従』の版木を保管しているのが、温故学会の塙保己一史料館です。『群書類従』の版木は17,244枚におよび、現在は国の重要文化財として保管されています。

ところで、塙保己一という全盲の学者に、なぜこのような大文献集の編集が可能だったのでしょうか。それを可能にしたのは、ひとつには保己一が驚異的な記憶力を持っていたことがあげられます。保己一は人に読んでもらった書物の内容を、一語一句間違えることなく一度で全てを記憶することができました。当時、限られた人のもとにしかなかった書物を借り、弟子に写させては朗読をさせ、内容が正しくない部分や欠けている部分などを自分の記憶によって修正、補正したのです。このようにして正しく記述された書物の内容を、一つ一つ版木にしていくという作業によって『群書類従』という大文献集は作られました。

版木摺り体験

今回の版木摺り体験で使われたのは『御江戸図説集覧』という、保己一の門下生である山崎美成が説明を施し、橋本玉蘭斎が原図を描いた江戸図の版木です。

始めに斎藤幸一氏による講演と版木の摺り方についての説明があった後、実際の摺りを行いました。



実際に摺りに挑戦



和紙の中央にあわせて摺るにはコツが必要



実際に版木摺りで使わせていただいた、渋谷区指定有形文化財の『御江戸図説集覧』

図書館の所蔵資料紹介

『人間の記録 全180巻』 日本図書センター 1997年-

このシリーズは、さまざまな分野で活躍した人物の自伝や評伝を集めたシリーズである。一冊につき一人の人物が取り上げられ、おもに大正から昭和の時代に活躍した人物を中心に、現在180巻目まで刊行されている。

ここで取り上げられているのは、間違いなく成功者の部類に入る人々である。ただ、近年、巨万の富を得た人々が出版する“自伝”にときおりあるような、自らの成功物語に空虚な“哲学”を絡めたストーリーは、ここには書かれていない。もし成功の秘訣を求めてこの本を手にとった場合は、おそらく期待はずれに終わることだろう。

このシリーズの中で20代の若者によく知られているのは岡本太郎、手塚治虫、井上靖、赤塚不二夫、東山魁夷あたりだろうか。高橋是清、渋沢栄一、南方熊楠などは歴史的な人物ゆえ当然知っているだろう。では小野田寛郎という人物を知っているだろうか？太平洋戦争が終わったことを信じずに、30年間もフィリピンのルバン島に潜伏し続け、1974年になってから日本に帰国した人だ。また、早川雪洲という俳優のことは聞いたことがあるだろうか。1910年代にハリウッド映画で活躍し、日本人で初めてアカデミー賞にノミネートされた人だ。他にも古川ロッパ、横山隆一、ジャイアント馬場といったさまざまな分野の人物の名前が並んでいる。

一冊ずつに収められたそれぞれの人生には、幼い時分に見て脳裏に焼きついている風景、青春時代に友と交わした言葉、あわただしくも充実していた活躍の日々といった、その人の「記録」が書きあらわされている。私たちは180人分の記録から、大正から昭和にかけての日本ではどんな人が活躍し、この時代の日本人がどのように生きてきたのかを知ることができる。また、彼らが第一人者として成功してからも持ち続ける間いや葛藤に、自分自身に対する厳しさを持ちつつ生きるこの時代の人間の矜持を感じとることだろう。

(請求記号: B281.08-19 横浜書庫上層)

『20世紀の人間たち：肖像写真集：1892-1952』 リブレポート 1991年 “Antlitz der Zeit” (時代の顔) Schirmer-Mosel 1990年 / アウグスト・ザンダー [撮影]



アウグスト・ザンダーは1876年生まれドイツの写真家である。1929年に発表された写真集『Antlitz der Zeit(時代の顔)』によって写真史にその名を残した。『時代の顔』は『20世紀の人間たち』の選集ともいえるものである。ザンダーの存命中に発行されたのはこちらの方で『20世紀の人間たち』は1980年になってからようやく刊行された。

『20世紀の人間たち』は、ザンダー自身の解説によれば、7部門に区別され、身分階層別に配列され、約45のファイルから成る写真による文化作品である。ここには20世紀初頭の様々な身分や職業のドイツの人々が撮影されており、あたかも当時のドイツ国民の「職業・身分別カタログ」のようである。彼らの多くは正面を向き、表情や動きをあまり作らず、個人名もなく職業のみが記されている。だが、写真家は決して人々をモノのように扱い、撮影したのではない。新即物主義の芸術家と親交のあったザンダーは“われわれの時代の時代像を提示するには、絶対的に自然に忠実な写真によるのが何よりも適切である”と語り、冷徹なまなざしをもって撮影を行ったのである。

『時代の顔』に序文を寄せたアルフレート・デーブリンは、人間の顔の「平板化」を“個人的・私的な違いがより大きな力である死と社会によって背景に退くこと”とし、ザンダーの写した人々の顔の上には、社会および諸階層によってもたらされた平板化が現れているとしている。しかし同時に、これらの肖像写真には、どこか「死」のイメージが漂う。

肖像写真には、その人を特徴づける表情や、独特の雰囲気といった個別的なものに焦点をあて写し取ったものが多くある。そのような写真の中で被写体は永遠の「生」を獲得する。しかしザンダーの撮影したモノクロの写真に写る顔はどこか遺影のように思え、見る側の想像力のせいにするには説明のつかない不吉さが漂う。まもなくナチス政権下におかれる時代のドイツにおいて、写真家はやがて来る不幸な時代の影をも忠実に写し取ってしまったのだろうか。

人々の顔の上に現れた「平板化」と「死」の影。ザンダーの撮影した数々の肖像は、我々が個人ではどうすることもできない大きな力によって翻弄される存在であることを、そして死に向かう時間を生きる存在であることを、語っているのかもしれない。

(『20世紀の人間たち』 請求記号: B748-147 横浜1F開架
“Antlitz der Zeit” 請求記号: A748-23 横浜書庫下層)

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

◎長期貸出について

対 象：学部生・科目等履修生

・冬季長期貸出期間 2010年12月1日(水)～12月25日(土)

返却期限日 2011年1月13日(木)

・春季長期貸出期間 2011年1月25日(火)～3月26日(土)

返却期限日 2011年4月11日(月)

ただし、卒年次生は2011年2月14日(月)

◎年末年始の休館について

2010年12月26日(日)～2011年1月6日(木)は休館となります。

◎一般公開休止について

後期試験につき、下記期間一般公開を休止いたします。
2011年1月7日(金)～2月2日(水)

◎館内設置パソコンの利用マナーについて

ネットワークエチケットを守って利用してください。
ログオンしたまま放置されているパソコンを発見した場合は、職員がログオフをします。データの保存は行いません。また、館内のパソコンでのネットゲームは禁止されています。

横 浜

◎春季館内改修工事について

館内の一部改修工事を行います。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。ご了承ください。

改修場所：地下1階第2グループ閲覧室

日 程：2～3月末

◎館内設置パソコンについて

館内にはOPAC検索用端末、検索用端末、学習用端末が設置されています。目的にあわせて利用してください。詳細は館内の掲示をご覧ください。

平 塚

◎休日開館の実施について

後期試験期間につき、休日開館を行います。

日 程：2011年1月9、10、16、23の各日曜および祝日

開館時間：9：10～16：50

◎1/15(土)の開館について

休講につき短縮開館になりますので、ご注意ください

開館時間：9：10～16：50

編集後記

今年も残すところ、あと一ヶ月ほどになった。学生の皆さんは、年が明けると定期試験が待っているが、その前に12月には楽しい事がたくさんある。

働く人達の楽しみは忘年会だ。一年の憂さは年に一度の忘年会ごときでは晴れるものではないが、飲んで騒ぐのはやはり楽しい。しかし、楽しすぎるあまり飲み方や騒ぎ方を間違えて、後々まで語りつがれるようなエピソードをつくらないよう気をつけたい。

クリスマスが一大イベントだという人達も多いだろう。この季節、街中も雑誌の特集もみんなクリスマス一色だ。ハロウィンが「かぼちゃのお祭り」程度の印象しかなく、あまり定着しそうなものに比べ、クリスマスはしっかりと日本の「お祭り」の地位を確立した。

楽しいイベントも一通り終わってしまうと、大晦日まではせわしない日々が続く。世の中の人々が、皆何かに追われているかのように買い物に走る。デパートの人気店舗には長い行列ができ、買い出しにつき合わされたお父さん達が、所在なさそうにスーパーを歩きまわる姿が目につくようになる。

1月1日、午前0時のゴールに向かってみんなが走る。そして新年を迎えると、人々の心は憑き物が取れたように落ち着きを取り戻す。ゴールに向かう喧騒が、新しい朝の静けさへと変わると新年の挨拶が交わされ、テレビのお笑い番組からは陽気な笑い声が鳴り響く。

人々が集い、祝い合うこの季節。

だが、孤独な人々にとっては、一年で一番つらい日々だという。

これから何年先、何十年先の私達の社会では「孤独」にどう向き合うかが最大の問題になるかもしれない。けれど私達一人一人が華やかな季節の影で沈黙する孤独を思うことで、少しずつ社会は変わっていくのかもしれない。

(N.E.)

今号の表紙

本を読む人々ー15世紀の絵画に描かれた「読書」

左からヤン・ファン・エイク《聖ヒエロニムス(部分)》1442年頃、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン《読書するマグダラ(部分)》1445年頃、ピエロ・デラ・フランチェスカ《福音記者聖ヨハネ(部分)》1460年頃